

第2回第4期食育推進プラン策定ワーキングにおける骨子案への御意見

○：骨子案修正意見，◇：取組等に関する意見

頁	項目	各委員からの意見等	対応方針等
P18 P23	重点施策2 関連	○「食文化」，「郷土料理」が何度か出てくるが，「旬の食材」にも注目すべきではないか。旬の食材と言われれば，身近なもので宮城県にはこれがある，と分かりやすい。郷土食も分からなくはないが，行事のときしか食べられないという印象もある。	「食文化」，「郷土料理」に「地域の旬の食材」を追加します。
P20	重点施策1 プラン2-3	○給食の「仲間と食べる楽しさの実感」の削除について，コロナ禍を受けてというところは分かるが，子供たちにとっては，友達と楽しく給食時間を過ごせるということが本当に大事だと思うので，消すのではなく，「コロナ禍で」という但し書きなどを付けることで対応できないか。	「仲間と食べる楽しさの実感」を削除せず，「仲間と食べる喜びの実感」に修正しました。
P23	重点施策3 プラン3-5	○食品ロスの削減に関しては，食べ切りの視点に加えて，購入した食材が手がつかない状態で廃棄されることがないように，食材の買い方に関して啓発のテーマとして盛り込めると良い。	料理の食べ切りに加えて，「計画的かつ適量の食品購入」を盛り込みました。
P24	重点施策2の目標	○「農業体験学習に取り組む小中学校の割合」については，こういった取組が学力向上に繋がるほか，協働教育として子ども達にとって意味のある活動でもあり，指標が廃止されるのは残念である。目標をある程度達成したため指標を廃止するという事は理解できるが，努力目標として今後も取り入れていただきたい。	同指標は「第2期食と農の県民条例基本計画（～R2）」において一定の成果を得たものとして，次期計画には盛り込まれず，現況把握のための調査も廃止となります。また，適当な代替指標が存在しないため，廃止と判断いたしました。 令和元年度で90.3%と高い実施率であるため，各学校や地域が実施する体験活動への講師のマッチング，アドバイザー派遣等を通して，各学校・地域の取組が継続・定着するよう支援してまいります。
P31 ～	ライフステージに 応じた食育の取組	○例えば調理のスキルについて，子ども世代の取組として入っているが，食への関心が薄い今の若い人たちに対しても，調理スキルの習得は必要ではないか。一方で，現在高齢期の方は，若い頃は男性が調理を習得するという時代ではなかったであろう。各年代の課題は，意外と共通しているのではと感じる。	今後，プランを推進する上で参考にさせていただきます。
P31 ～	ライフステージに 応じた食育の取組	○農業体験についても，子供たちだけではなく，親世代や，その上の世代の方も一緒に取り組み，それぞれに学びがある。生涯学習の観点からは，学び続ける社会ということも言われている。食の学びの楽しさは各世代にあっても良く，ライフステージごとに分ける部分と，共通テーマで交流しながら学ぶ部分とがあって良いと感じた。	今後，プランを推進する上で参考にさせていただきます。
P32	ライフステージに 応じた食育の取組 (1)子どもの食育	◇P34の3段落目において，新しい生活様式において期待されることがある一方で，学校には給食で1日の栄養を賄っているような子どもも少なからずおり，そのような子どもが肥満や虫歯とも重なってくる。そういった子供たち，そして家庭の存在を，決して忘れてはならないと感じている。	今後，プランを推進する上で参考にさせていただきます。

頁	項目	各委員からの意見等	対応方針等
P37	ライフステージに応じた食育の取組 (4)高齢期	○高齢者は新しい情報を得ることが難しいことから、若い年代と知識が異なり、家庭内でも、高齢者の方と若いお母さんで考え方や知識が異なる場合もあるので、食育を行う上で家庭内での情報共有や高齢者の意識の向上が必要と感 じる	今後、プランを推進する上で参考にさせていただきます。
P37	ライフステージに応じた食育の取組 (4)高齢期	○高齢者は引退してしまうと、どうしても学校等と繋がりがなくなるが、こういった推進方向（地域の食への愛着の醸成や、高齢者の食に対しての協力の仕方など）があると、学校で行っている総合学習の一環であるコミュニティースクール等にも入りやすくなってくるので、取り入れていただくと、高齢者も大変力になる。	今後、プランを推進する上で参考にさせていただきます。